

発行日 平成 28 年 6 月 23 日  
発行 笠間市社協東支部  
編集 広報委員会  
印刷 有限会社 テクノプラン

共生の  
心一つに  
町光る



**新年度スタート**  
【新事業含め更に充実!】

平成二十八年度東支部代議員会開催

四月二十四日、友部社会福祉会館で、平成二十八年度東支部代議員会が開催されました。

**平成二十八年度事業計画 基本方針**

平成二十七年事業報告、収支決算報告、二十八年度の事業計画案、収支予算案が提案され、執行部の原案が承認されました。

- 一 地域交流事業活動支援
  - (一) 県立友部特別支援学校との交流
  - (二) 友部小学校との交流
  - (三) 児童の交通安全、防犯活動
  - (四) 各地区敬老会の協力参加
- 二 二人づくり、地域づくり促進
  - (一) 三世代の集い支援
  - (二) 南友部八区・初詣の会
- 三 モデル地区の育成
  - (一) 鴻巣地区・祇園祭り
  - (二) 南友部・子供みこし大会
  - (三) 西飯田地区・グラウンドゴルフ大会
- 四 高齢者の親睦・健康づくり支援
  - (一) クロケータ大会
  - (二) グラウンドゴルフ大会
- 五 児童の健全育成支援
  - (一) 各子ども会活動の資金助成
  - (二) 子どもグラウンドゴルフ大会 (新事業)
- 六 各種研修会開催
  - (一) 支部委員・福祉推進員研修会
  - (二) 友部公民館共催事業 (出前講座)
- 七 災害地の支援活動
  - 市内、県内、県外での支援
- 八 女性部の活動
  - (一) 高齢者福祉活動推進
  - (二) 配食サービス



リハビリセンターの桜満開 (撮影 市川惣三郎)

**平成27年度収支決算報告と平成28年度収支予算**

<収入の部>			<支出の部>		
科目	H27年決算額	H28年予算額	科目	H27年決算額	H28年予算額
会員会費還元金	1,111,750	1,150,000	事務費	14,212	30,000
福祉コミュニティ助成金	50,000	50,000	会議費	69,146	50,000
広報助成金	111,175	115,000	組織強化費	86,520	50,000
繰越金	600,383	467,787	慶弔費	10,000	10,000
雑収入	84,300	49,213	事業費	388,254	370,000
			女性部	439,179	540,000
			広報委員会	185,053	220,000
			役員研修費	63,173	100,000
			地域活動推進費	140,000	160,000
			予備費	94,284	302,000
			繰越金	467,787	
合計	1,957,608	1,832,000	合計	1,957,608	1,832,000

- 九 広報委員会の活動
    - (一) 広報紙支部だより「ひがし」発行 (年4回)
    - (二) 広報委員研修会
  - 十 会員会費の募集
    - これらの事業を遂行するため、会員会費を区長、班長、福祉推進員、民生児童委員の皆さんにご協力をお願いし募集する。
- 二十八年度東支部役員 (敬称略)**
- 支部長 内桶 正夫
  - 副支部長 綿引 隆信
  - 副支部長 鈴木 義雄
  - 副支部長 石崎 千賀子
  - 会計 山口 裕
  - 会計 橋本 由合子
  - 監事 菱沼 征一
  - 監事 滝本 洋一
  - 女性部長 石崎 千賀子
  - 〃 副部長 (新任) 鶴田 ふう (南友部)
  - 〃 副部長 岩田 正子 (柿橋)
  - 〃 副部長 友部 由紀江 (宮前・鴻巣)
  - 〃 副部長 鈴木 龍子 (五平)
  - 広報委員長 西澤 暉雄
  - 民児委員 皆川 勇
  - 民児委員 (南友部・宮前・鴻巣) 生天目 純子 (五平・柿橋)

# 私を支えた 版画人生

時計台 西内郷 多田 邦生



作品「眺望・千曲川」の前で

生まれつき楽天的というよりはノーテンキな性格である。

昨年十月末、S字結腸がんと宣告されたとき、頭に浮かんだのは「鰻が喰べられるようになれるかな。」と、五年ぶり・十五回目となる「三月の版画個展はできるだろうか。」の二つで、不思議とがんの恐怖は浮かんでこなかった。

三月の個展までは四ヶ月、丁度作品作りの追い込みにかかった時期だった。延期しても出来るとは限らない。予定通り三月にやることに決めた。

十二月に再手術、正月は病院のベッドでむかえて、個展までのスケジュールを決めた。

一月は残る大作一点を完成させ、小品も完成させ、足りない分は今までの私の歩みを示すような作品を選び出して

点数を何とか確保した。

二月に入り、抗がん剤治療に入ると副作用に苦しめられたが、体調が悪い日は休養して体調の良い日に仕事をすめることで乗り切った。

病気がことが知れてしまつたこと、十五回と区切りの個展でもあり、遠方よりの来客も予定されており、会場に詰め切ることが出来るかどうか不安だったが、ともべ版画クラブのメンバーが毎日詰めてくれたこともあって乗り切ることができた。幸い批評・感想は好意的で病気を忘れさせてくれた。

個展終了後、徐々に抗がん剤の副作用も軽くなってきた感じがして、傘寿（八十歳）には次の個展をと計画している。

余談ながらまだ鰻は食べていない。もう少し体力が回復して美味しく喰べられる日が来るのをを楽しみにしている。

## 高校三年生にタイムスリップ！

柿橋ブロック長 岩田 正子

三月六日（日）社協の二階にて、柿橋ブロックの「対話と食事会」を開催しました。天気か雨の予報でしたが、春の心配をしてみました。春の陽気の暖かい日となり、区長さん、民生委員さん、役員を入れて総勢九十二名の参加となりました。あまりの人数の多さに、お料理を作るのも、またテーブルをどのようにつけていくかという問題が、朝早くから役員は大忙しです。しかし、開会の十一時半の頃には、どうにかお料理も並び、楽しく会食、その後



そして次の日、ある役員宅に「昨日はとても美味しかったですよ！」という内容の手紙が入っていたと聞き、大感激でした。

最後になりますが、役員の皆様、朝早くから一日大変お疲れ様でした。

## わが町の自主防災は（第八回）

楽しみながら参加できる防災訓練・イベント

こうのす団地防災事務局 三林 健次郎



応急担架による搬送訓練

東日本大震災では、このす団地内に大きな被害はなかったものの、「災害用の機材が整っていない」、「非常時の水の確保ができない」、「住民相互の安否確認の仕組みがない」など多くの課題が指摘されました。そこで、平成二十四年十月に自主防災会が結成され、地域防災の様々な課題に取り組んでいきます。

このす団地内の7つの班から一名ずつ選出された防災委員が、防災訓練やイベント、機材の整備などの企画立案・運

営にあたってきました。友部消防署の指導による「煙ハウスでの煙体験」や「毛布を利用した応急担架による搬送訓練」を行った。防災科学研究所の防災博士「Dr. ナダレンジャー」による「防災科学ショー」や「空き缶を利用した炊飯体験」を行ったりと楽しみながら参加できる防災訓練・イベントを毎年行っています。また、炊き出しで調理した豚汁の試食などの他に「餅つき」や「縁日ゲーム」なども併せて実施し、このす団地内の親睦を深めてきました。

今後も地域防災活動に継続的に取り組み、災害に強い地域づくりを目指していききたいと思えます。

## 私達が配ります

東支部配食サービス

東支部では七十歳以上で一人暮らしの高齢者の希望者に2回目の配食サービスを二月二十七日に実施しました。女性部が心を込めて調理した六十食のお弁当は東支部や女性部の役員がお届けしました。



## 編集あとがき

熊本・大分両県の大規模な地震により被災された方々からのお見舞い申し上げます。

今尚活発な地震活動が続き不安な毎日を送っている方々、一日も早く復旧し穏やかな生活を送る事が出来る様祈るばかりです。

八月にはリオ・オリンピックが開催されます。選手の皆さんの活躍を期待し、明るいニュースが届くといいですね。

今後も地域の活動を紹介しますので、皆様方の御協力を宜しくお願いします。（深倉）